

サンセット 散策マップ 三角沼

秋田地区かわまちづくり 新屋右岸・三角沼ワークショップ

今からおよそ70年前、度重なる水害から秋田市を守るために、雄物川放水路がつくられました。その水辺には、水と緑が作り出す憩いの空間があることをご存じでしょうか。

現在、地域の有志や川の管理者等が一緒になって、この地域の資産をより良く、より活用しようと、知恵を出し合っています。この散策マップは、そんな地域の活動を紹介し、さらに地域の良いところを皆さんに知ってもらおうと、作成しているものです。

参加者募集中

このマップは、まだまだ作成途中の第1稿です。マップへの意見、ならびにワークショップへの参加をお待ちしております。

問い合わせ先

秋田地区かわまちづくり懇談会事務局
(国土交通省秋田河川国道事務所 調査第一課内)
TEL 018-864-2288
FAX 018-864-5204
e-mail kawa-akita@thr.mlit.go.jp

石山平和観音



緑道の終点付近は、沖合い遠くに男鹿半島、南に霊峰鳥海山を望む絶好の景勝地です。また、古くから霊験あらたかなこの地には、昭和27年、戦時に散った英霊を慰めるため、有志により石山平和観音が建立され、三十三番観音像も祀られています。

石山観音

文治年間(1185年頃)、漁師の網にかかって引き上げられ、石山の丘に祀られました。

古代の大地震で勝平山が崩れた際に、勝平寺から消失した石仏の一つではないかとも、伝えられています。



雄物川の河口と日本海が一望できる四阿があります。ここから眺める夕陽は最高!

かつひら観音散策道路

(さわやか寿健康ロード)

雄物新橋から、小道を入ると、住宅地のすぐ側にこんな場所がと驚くような山道が……。

四季を通じて森林浴を楽しめるこの緑道は、散策利用者も多く、ちょっとしたハイキング気分が満喫できます。



水辺の広場

ちょっとした散策や水遊び、木陰での一休みに最適



コスモスロード



憩いの広場「三角沼」

地域の資産を、地域の手で。ベンチの設置や園路などレイアウトの検討、それに維持管理と、手作りの「憩いと賑わいの空間作り」を行っています。

興味のある方、是非とも一緒に!

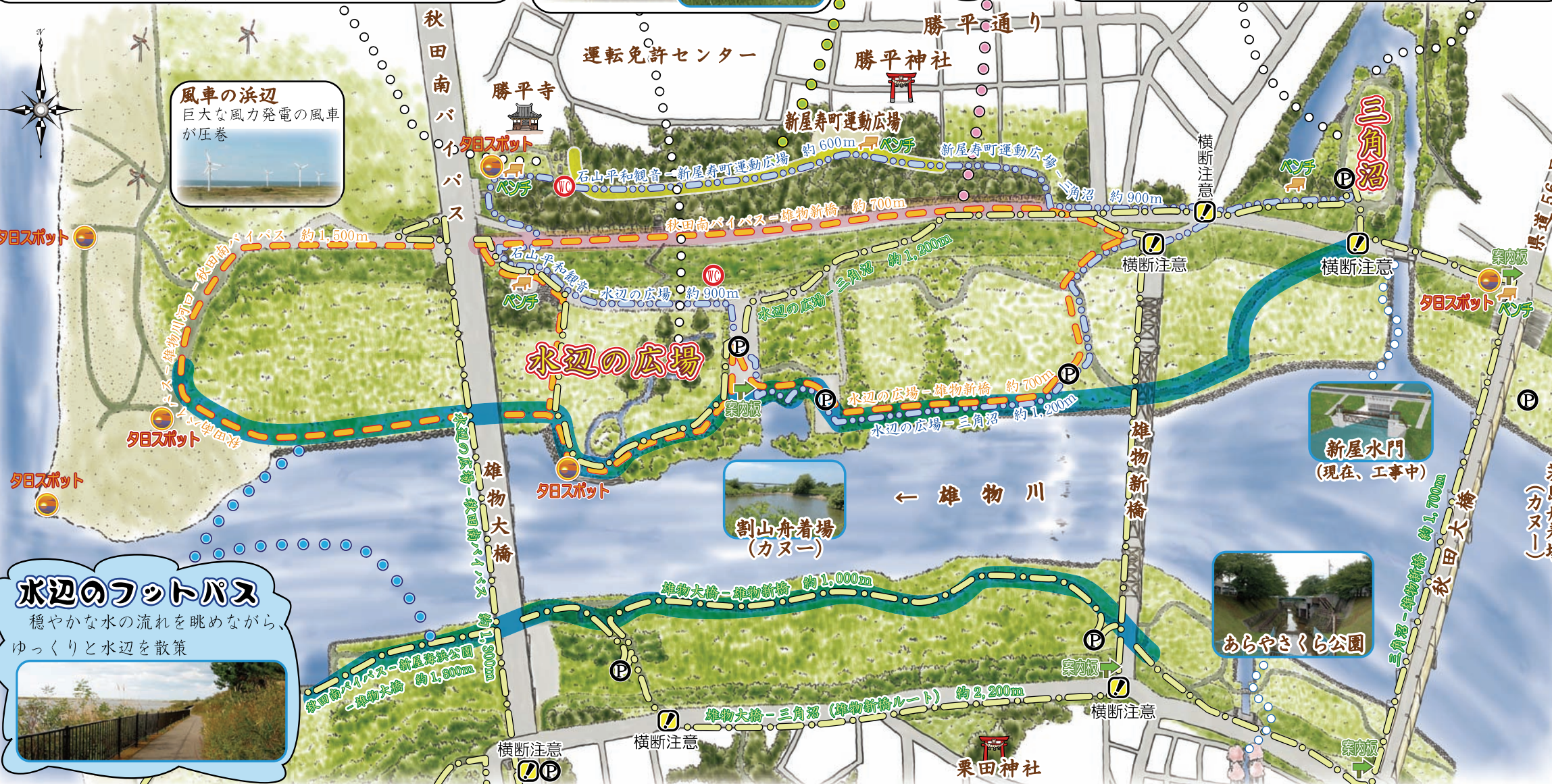


三角沼舟着場

カヌーの舟着場も、9月に完成しました。



三角沼に降りるスロープは、この春に完成。皆で組み立てたベンチも、もうすぐお目見えます。



水辺のフットパス

穏やかな水の流れを眺めながら、ゆっくりと水辺を散策



景色を眺めながら少し歩いてみたという人のための 散策モデルルート

- 雄物川右岸ぐるっとルート ●
 - 三角沼ルート

三角沼から、かつひら観音散策道路-石山平和観音-水辺の広場-水辺のフットパスを周遊するルートです。一周約3.6km。
 - 水辺の広場ルート

水辺の広場を起点として、水辺のフットパスを通して雄物川の河口まで約3.8kmのルートです。
- 雄物川河口域周遊ルート ●
 - 三角沼をスタートして、雄物川の河口域をぐるりと一周するルートです。秋田大橋を渡って一周するルートだと約7km、雄物新橋ルートだと約5.3km。

地図凡例

- 夕日スポット
- ☞ ベンチ・休憩場所
- かつひら観音散策道路 (さわやか寿健康ロード)
- 案内板・道標
- 水辺のフットパス
- Ⓟ 駐車スペース
- コスモスロード
- ♿ トイレ
- ⚠ 横断注意

雄物川放水路が開通する以前、放水路を挟んだ二つの地域（現在の勝平と新屋）は、新屋という一つの町でした。その名残は、今も町名や街道の姿に残っています。

勝平山

勝平山は、日本海と旧雄物川のあいだの砂丘地にあり、日本海からの激しい季節風を受ける山です。

830年の天長の大地震以前の新屋は、凡そ勝平山およびその山麓に集落がありました。古くからの伝えによると、日吉神社は806年に勝平山の麓に鎮座したとされています。大地震によって地形が大きく変わり、そのため新屋の人たちはしだいに南下し、三ツ小屋あたりまで移動したと言われています。

文政5年（1822年）、栗田定之丞らがはじめた勝平山の植林は、天保3年（1832年）に完成し、植栽されたクロマツは300万株に及びます。これが日本海に沿って南北に延長14キロメートルも続いています。

出典：「秋田県の地名」、「新屋風土記」および「農業と環境」ホームページより



勝平寺

勝平寺の歴史は古く古代から勝平山の山麓にあり、地域住民の信仰を集めていました。しかし、天長の大地震で砂に埋もれ、1400年余の間、幻の寺とされていました。

現在の勝平寺は高柳高城和尚が地域の人とはかり、昭和39年（1964年）に復興開山し、その後、増改築がすすめられ現在の建物になっています。

出典：「勝平寺パンフレット」より



勝平神社と勝平日吉神社



勝平神社

大同元年（806年）にはすでに勝平山の麓に鎮座したとされる日吉神社。日吉神社が地震のため南方に移転してまもなく、日吉大神を敬慕する村民は、勝平山に小祠を建て、勝平神社と名づけて信仰しました。

里宮の勝平神社は昭和5年に焼失しましたが、昭和42年に現在の場所に再建されました。

勝平日吉神社は平成4年（1992年）日吉神社の分社として建立されました。当時、勝平地区の人口は増え、日吉神社と距離もあったことから、勝平地区の要望で分社されたものです。



勝平日吉神社

出典：「新屋風土記」および「秋田市合併50周年小史」より



※このマップは、国土地理院発行 1/25,000 地形図（平成18年更新）をもとに作成しました

羽州浜街道

羽州浜街道は、久保田城下から日本海沿いに南下し、越後村上を結ぶ道です。江戸期の主な利用者は旅人（塩・魚などの運搬者）でした。

久保田城下の出口は馬口労町です。川尻を通り新川橋上流あたりの渡し場から雄物川を渡り、勝平地区に入り、豊町・割山町・船場町を通って新屋表町へ。愛宕町の地藏堂から浜田中村を通って本荘へと続いていました。

出典：「東北の街道」および「秋田河川国道事務所」ホームページより